

平成 17 年第 2 回 E x T E N D 2005 基盤的研究企画評価検討会 議事要旨

日時：平成 18 年 4 月 14 日（木） 13:30～17:30

場所：環境省第 1 会議室

- III 出席委員：佐藤洋（座長）、小山次朗、遠山千春、鳥居圭市、萩野哲、益永茂樹、渡邊知保
オブザーバー（代表研究者）：勝義直、長濱嘉孝（共同研究者として松田勝）、長江真樹、
中井誠、戸笈修（柏木昭彦の代理）、渡邊肇、鈴木勝士、青山博昭、濱口哲、木
下政人、蔵崎正明、杉原数美（太田茂の代理）、鯉淵典之、中西剛、早川和一
（敬称略）

事務局：上家環境安全課長他

欠席委員：永沼章

議題：

1. 平成 17 年度 ExTEND2005 基盤的研究の成果について
2. その他

議事要旨

- (1) ExTEND2005 における基盤的研究の成果について、研究担当者からの報告及び質疑応答が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・課題 1 「魚類精巣卵の誘起機構解析」：英国ローチに対する研究者らの見解が環境省見解と異なる印象がある。
- ・課題 2 「メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究」：用量設定に対する考え方を明確にされたい。
- ・課題 3 「イトヨによる内分泌かく乱作用の評価手法の研究」：スピギンはばく露指標ではあっても影響指標ではない。
- ・課題 4 「メダカ AR 結合試験の確立」：哺乳類細胞中にメダカ AR（アンドロジェン受容体）を導入している点に無理を感じる。
- ・課題 5 「両生類の甲状腺ホルモンに対するかく乱作用発現のメカニズムに関する研究」：被験物質 IOP、PTU の作用や環境ばく露状況を明確にする必要がある。
- ・課題 6 「ミジンコにおける内分泌かく乱作用発現のメカニズムに関する研究」：OECD 対応に絞った研究内容に見直す必要がある。
- ・課題 7 「哺乳類試験において観察される変化についての研究」：11 系統の原因遺伝子を見つけていく作業は膨大なので、焦点を絞った方がよい。
- ・フィジビリティースタディ課題 1 「野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析」：再現性の高さ、調査地点の選定方法、自然界のメダカの性転換があった場合、突然変異なのか内分泌かく乱によるのか判定可能か、などの質問があった。

- ・フィジビリティースタディ課題2「遺伝子導入メダカを用いた内分泌かく乱物質の影響評価と作用機構の解明」：蛍光遺伝子導入そのものによる影響について質問があった。
- ・フィジビリティースタディ課題3「内分泌かく乱物質の生態影響試験法の開発」：全体像、ExTEND2005との関連性が不明瞭である。
- ・フィジビリティースタディ課題4「化学物質の内分泌意かく乱作用に対する代謝的活性変動の研究」：代謝活性化におけるキネティクスの考え方を示されたい。
- ・フィジビリティースタディ課題5「核内ホルモン受容体の転写調節における環境化学物質の作用機構」：ゲルシフト法の問題点について明確にされたい。
- ・フィジビリティースタディ課題6「化学物質の胎盤内分泌機能への影響を考慮した生殖発生毒性評価」：TPT、TBT以外の被験物質の検討予定を示されたい。
- ・フィジビリティースタディ課題7「燃焼排ガスに含まれる多環芳香族炭化水素の内分泌かく乱作用の評価」多くの前提に基づき結論が導かれている。基盤的研究という観点から、多面的、客観的な裏付けを期待したい。

(2) その他。

本検討会に引き続き委員による評価会議を実施することとした。

H17年度報告書の提出、今後の継続等について追って研究代表者に連絡することとした。

以上